

サントウサイ (露地) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長型であり、窒素をはじめ養分を連続吸収する。収穫期まで養分を供給する必要があり、収穫後の土壌には残存しやすい。そのため、年間を通じた施肥管理が必要となる。堆肥についても年間を通じた施肥量管理が必要であり、毎作投入する必要性はない。

〔病害虫・雑草防除〕

土壤病害対策としては、低湿地での栽培をさげ、排水の良い場所での作付けを基本とする。粘着トラップやフェロモントラップにより害虫の侵入や発生を予察し、早期防除を図り、化学農薬の使用を削減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。 緑肥作物を利用する。	堆肥(年間) 2~3t/10a
化学肥料 低減技術	基肥は、畝内のみ局所施肥とする。 栽培期間が長い低温期や連続栽培では、肥効調節型肥料を利用する。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で慣行施肥量の20%減 有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20~50%
化学農薬 低減技術	BT剤を利用する。 (対象:コナガなど) 光反射マルチを利用する。 (対象:アブラムシ類、雑草など) 防虫ネットによる被覆を行う。 (対象:アブラムシ類、コナガなど) 被覆資材により雨よけ栽培を行う。 (対象:白さび病など) 性フェロモン剤により交尾阻害を図る。 (対象:コナガ、ハスモンヨトウ) 性フェロモン剤による発生予察・誘殺を行う。 (対象:コナガなど) マルチ栽培を行う。 (対象:雑草など)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	堆肥中の成分含量を考慮して基肥量を加減する。 水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意したきめ細やかな施肥法をとる必要がある。 高畝栽培し排水を良くする。 (対象:根こぶ病) 圃場および周辺の残さ処分と除草を行う。 (対象:病害) 盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。	

サントウサイ (施設) (黒ボク土)

〔土壌肥料〕

本作目は、栄養生長型であり、窒素をはじめ養分を連続吸収する。収穫期まで養分を供給する必要があり、収穫後の土壌には残存しやすい。特に施設では、塩類集積対策を考慮し、他作物との輪作体系による栽培が土壌管理上有効である。堆肥については年間を通じた施肥量管理が必要であり、毎作投入する必要性はない。

〔病害虫・雑草防除〕

土壌病害対策としては、低湿地での栽培をさげ、排水の良い場所での作付けを基本とする。粘着トラップやフェロモントラップにより害虫の侵入や発生を予察し、早期防除を図り、化学農薬の使用を削減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。 緑肥作物を利用する。	堆肥(年間) 2~3t/10a
化学肥料 低減技術	基肥は、畝内のみでの局所施肥とする。 連続栽培では、肥効調節型肥料を利用する。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で慣行施肥量の20%減 有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20~50%
化学農薬 低減技術	BT剤を利用する。 (対象:コナガなど) 夏季に太陽熱土壌消毒を行う。 (対象:土壌病害虫、雑草など) 開口部やサイドを防虫ネットで被覆する。 (対象:アブラムシ類、コナガなど) 光反射マルチを利用する。 (対象:アブラムシ類、雑草など) 流動性被覆資材を利用する。 (対象:灰色かび病など) 近紫外線除去フィルムを利用する。 (対象:灰色かび病、ハモグリバエ類など) 性フェロモン剤により交尾阻害を図る。 (対象:コナガ) 性フェロモン剤による発生予察・誘殺を行う。 (対象:コナガなど) マルチ栽培を行う。 (対象:雑草など)	慣行使用回数の 20%減
その他の 留意事項	堆肥中の成分含量を考慮して基肥量を加減する。 水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意したきめ細やかな施肥法をとる必要がある。 高畝栽培し排水を良くする。 (対象:根こぶ病) 施設および周辺の残さ処分と除草を行う。 (対象:病害) 盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。	